

ビジネス日本語授業 シラバス案・授業案

公益財団法人 日本漢字能力検定協会は、「日本語・漢字を学ぶ楽しさを提供し、豊かな社会の実現に貢献します」というミッションのもと、様々な活動を行っております。

BJT ビジネス日本語能力テストは「日本語能力育成活動」として、日本社会で活躍することを目指して日本語を学ぶ人々に学習到達度や能力証明の指標を提供し、より効果的な日本語学習を支援することを目的に実施してまいりました。

最近先生方から当協会に「ビジネス日本語をどのように教えたらよいか」「教材を紹介してほしい」など、ビジネス日本語の指導全般に関するご相談をいただくことが増えており、先生方のお手伝いをするのも活動の柱に位置づけたように考えるようになりました。

そこでこの度、特定非営利活動法人 日本語教育研究所様にご協力いただき、ビジネス日本語のシラバス・授業案を制作いたしました。日本語教育研究所様にはこれからビジネス日本語に携わろうとされている先生も含めて、どなたでも取り組みやすい授業になるよう工夫していただいております。

ひとつの案ではございますが、ぜひ日ごろの授業にご活用ください。先生のご指導に少しでも役立ていただけましたら幸甚に存じます。

■ このシラバス案・教案の狙い

- ・留学生の学習へのモチベーションを維持したまま、授業を受講できることを目指しています。
※ビジネス日本語の授業が正規科目ではなく、任意で出席する科目として設置されており、科目の途中で離脱してしまう留学生が多いとお声をいただいていた。
- ・就職活動や仕事の場面で必要となるビジネス日本語を学べることを目指しています。
- ・ここで扱うビジネス日本語は、「敬語」や「ビジネス用語」「マナー」だけをさすのではなく、日本の会社の中で人間関係を上手に築くことができるコミュニケーション能力や異文化理解力も含めて「ビジネス日本語」としています。

■ 使い方

シラバス案

全15回となっておりますが、授業数や一講義あたりの時間に合わせて自由にご調整ください。日頃の授業の中で活かせるような箇所だけを取り上げてお使いいただければ結構です。



授業案

授業をしていただくにあたってのあくまでひとつのモデルです。実際の留学生や先生のご都合に合わせて、ご自由に変えてくださって問題はありません。時間配分もひとつの目安として示しているに過ぎません。こちらも授業の状況に合わせて自由に変えてご活用いただければと思います。

■ お願い

活用された感想やお気づきの点などがございましたら、弊協会までお知らせいただけますと幸いです。

ビジネス日本語授業シラバス

対象者	初めてビジネス日本語を学ぶ日本での就職を希望する外国人留学生 ※日本語力はN2相当以上
時間数	1回 50分×15回
授業の 目的と概要	マンガを素材として、学生が楽しくビジネス日本語学習をスタートできるクラス。日本の社会で暮らす社会人として身に付けておかなければならない常識、ルール、マナーなどに基づいた日本語について学ぶとともに、職場でいい人間関係を築くためにはこれからどんなことを勉強していけばいいのかを知る。
学習の 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学生同士の言葉遣いと職場での言葉遣いの違いを理解する。 2) 電話、メールなどで使われる日本語の基本を知り、ビジネス日本語の一端を知る。 3) 職場で起こりうる問題を回避するために必要な日本語力を身に付ける。 4) 職場でいい人間関係を作るために必要な職場のマナーを理解し、場面に応じた表現を学ぶ。 5) 社会人として知っておくという日本事情とその場に応じた表現を知る。
授業内容	<p>1) 場面、立場による言葉遣いの違い (ウォーミングアップ)</p> <p>第1回 「自分」を表す言葉を例に場面、立場による言葉の使い分け</p> <p>第2回 「すみません」を例に場面に適した謝罪表現や感謝を表す表現</p> <p>第3回 「内」と「外」で変わる言葉遣いの違い</p> <p>2) 仕事の日本語 (今後の学習の予告編)</p> <p>第4回 会社での電話対応の基本</p> <p>第5回 ビジネスメールの基本書式</p> <p>第6回 社会人らしい雑談の話題</p> <p>第7回 ビジネスでよく使われる外来語</p> <p>3) 働くときに重要なこと (どんな日本語を使えば問題を回避できるのか練習する)</p> <p>第8回 「ほうれんそう」をするときの表現</p> <p>第9回 「確認」をするときの表現</p> <p>第10回 「質問」をするときの表現</p> <p>4) 職場でいい人間関係を作るには? (ディスカッションを通して気付かせる)</p> <p>第11回 有給休暇の申請</p> <p>第12回 退社時のひとこと</p> <p>第13回 上司や同僚とのコミュニケーション</p> <p>5) 社会人として知っておきたい日本事情 (なぜなのか、その理由をきちんと理解させる)</p> <p>第14回 贈答の慣習 (お土産など) と場面に応じた挨拶</p> <p>第15回 冠婚葬祭のマナーとそれぞれの場面に応じた挨拶</p>
参考図書	<p>『マンガで体験! にっぽんのカイシャ』 漢検 1,200円+税</p> <p>『マンガで学ぶ日本語表現と日本文化 多辺田家が行く!!!』 アルク 2,000円+税</p> <p>『中上級のにはほんご』 創作集団にはほんご 500円+税</p> <p>『マンガ異文化手習い帳』 文化庁編 800円+税</p>
作成者	 <p style="text-align: center;"> 日本語教育研究所 <small>特定非営利活動法人</small> <small>NPO Research Institute for Japanese Language Education</small> </p>
発行元 問い合わせ先	<p style="text-align: center;">  漢検 </p> <p style="text-align: center;"> (公財)日本漢字能力検定協会 普及第二部 BJT 担当 TEL: 0120-509-315 (フリーコール) </p>

ビジネス日本語授業 授業案

指導者： 〇〇△△

教える課・項目： 働くときに重要なこと（どんな日本語を使えば問題を回避できるのか練習する）

学習者レベル： N2相当以上

学習者： 日本での就職を希望する外国人留学生

授業の目標(can-do)： 誤解を与えずにうまく確認することができる。

時間配分	活動内容	教材など
2～3分	<p>●授業の目標 Can-do 確認</p> <p>どんなに日本語が上手になっても、相手にうまく通じていなければ誤解を生じ、人間関係にも支障をきたし、ビジネスもうまく行かなくなってしまう。どのように気をつければいいのかについて学ぶ。</p>	
10分	<p>●「4時と14時は大違い」を読む</p> <p>『考えよう!』p.22 に併せて、チャタポーンはどうすればよかったのか、どうすべきだったのかについて話し合う。</p> <p>●時間の言い方について、考えてみる。</p> <p>学習者の国と日本では異なるのか？ p.23 解説「約束の日時は必ず復唱しよう！」を元に、日本の場合について学ぶ。(各国事情と併せてディスカッションしてもよい)</p>	『マンガで体験！にっぽんのカイシャ p.22 08「4時と14時は大違い。」
15分	<p>●電話の会話で練習してみる。状況：アポイントをする、など。</p> <p>「使ってみよう!」「会話を作ろう!」を参考に。ペアで会話をしてみたり、自分たちで会話を作ってみたりする。</p> <p>(教師は各グループの活動を巡視し、アドバイスしたり訂正したりする)</p>	『マンガで体験！にっぽんのカイシャ』p.23 解説
10分	<p>●会話の発表</p> <p>各グループが作った会話をクラスの前で発表する。電話会話なら、二人を背中合わせで座らせるなど工夫して、電話会話らしく状況を設定する。</p>	教科書をそのまま使用してもいいが、会話作成は別紙を数枚用意して学生に渡す。別紙は、白い紙でも、罫線が入っているノートのようなものでも何でも構わない。
5分	<p>●発表のフィードバック。よかったところ、改善すべきところを伝える。</p>	
5分	<p>●まとめ(全体のフィードバック、宿題などの連絡)</p> <p>授業目標 Can-do の再確認</p> <p>この授業で扱ったテーマは、日本人同士であっても起こりがちであること。「時間の言い方」だけに限らず、コミュニケーションにおいて、復唱して確認することは大切であること。ビジネスシーンに限らず、日常生活全般において言えることである、と伝える。</p>	「振り返りシート」などを渡し、この授業で自分が学んだこと、今後自分の現在の生活や将来にどのように活かせるかを書いて提出してもらおう。時間がなければ宿題にする。
(合計 50分)		
作成者	 <p>特定非営利活動法人 日本語教育研究所 NPO Research Institute for Japanese Language Education</p>	
発行元 問い合わせ先	 <p>(公財) 日本漢字能力検定協会 普及第二部 BJT 担当 TEL : 0120-509-315 (フリーコール)</p>	

ご不明点や資料のご請求は、お気軽に下記へご連絡ください。



公益財団法人 日本漢字能力検定協会

普及第二部 BJT 担当

〒108-0023

東京都港区芝浦 3-17-11 天翔田町ビル 6F

<http://www.kanken.or.jp/bjt/>

お問い合わせ  0120-509-315

お問い合わせ時間：月～金 9:00～17:00

(祝日・年末年始を除く)

お問い合わせフォーム (下記 QR コードよりアクセスください)

